

Title	故鈴木清之輔教授追悼論文集の刊行にあたって (故鈴木清之輔教授追悼号)
Sub Title	
Author	十川, 廣國(Sogawa, Hirokuni)
Publisher	
Publication year	2000
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.43, No.特別号 (2000. 11) ,p.i-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-20001100-00687979

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

故鈴木清之輔教授追悼論文集の刊行にあたって

鈴木清之輔教授は昨年6月15日に急逝されました。この度、鈴木教授と縁の深かった人々が集い、同教授を偲んで追悼論文集を刊行する運びになりました。追悼論文集刊行にあたり、学部長としてまた親しくお付き合いをさせていただいた友人の一人として鈴木教授の在りし日に思いを馳せ、同教授の足跡を振り返りながらご挨拶を申し述べたいと存じます。

鈴木教授は昭和43年に慶應義塾大学商学部を卒業され、同年慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程、続いて昭和46年に同研究科博士課程に進学されました。また博士課程進学と同時に商学部助手に任用され、その後助教授を経て平成5年に教授に就任されました。学部のゼミナール以来、鈴木教授は一貫して企業集中論の分野の研究に専念されてこられ、数多くの論文を世に出されてきました。なかでもドイツにおける企業集中の研究に多くの時間をさかれ、「西ドイツにおける企業結合」、「ドイツにおける企業間結合の構造と展開」など優れた業績を発表され、学会で高い評価を受けてこられました。

数年来、鈴木教授は長年にわたる企業集中の研究を集大成すべく精力的に研究を進めておられました。その作業の一貫として「ドイツの持株会社」についての論文をまとめるべく研究をされていたのですが、執筆途上で急逝され絶筆になってしまいました。突然の入院の直前まで体調の異変に気づきながらも机に向かわれていたとのことであり、最後まで研究者としての姿勢を貫かれました。鈴木教授ご本人の無念さはいかばかりであったかと思えます。我々にとっても研究途上しかも53歳という若さで世を去られたことは誠に残念なことであります。数年前に得られた病が完治していたという我々の思いがあっただけに口惜しい限りであります。これから学部・大学院のさまざまな改革を迫られており、商学部として多くの方々からの貴重な示唆が必要とされる時期でもあり、鈴木教授という極めて有為な人材を失ってしまったことは大きな損失であります。

鈴木教授は先に述べましたように、企業集中についての優れた研究者であります。加えてその他の分野についても極めて豊富な知識と見識をもっておられた人物であります。私もさまざまな社会経済的現象について鋭い視点から雄弁に語っておられた鈴木教授の姿に何度となく接し、感心させられた覚えがあり、その光景ははっきりと今も目に焼き付いています。鈴木教授は幅広い背景知識と高い見識をもっておられましたが、笑顔を絶やさず、いつも相手のことを考慮に入れながら対応するといった姿勢をそなえた人物でありました。

私は鈴木教授とは学年が2年上になりますが、学部出身ゼミ（現名誉教授野口祐研究会）が同じであり、長い間お付き合いをいただきました。その間、鈴木教授の人柄にふれ、さまざまな面で数限りない示唆を受けました。常に相手の立場を認めて対応する鈴木教授の姿勢に私を含む多くの人たちが感銘を受け、尊敬の念をいただいたに違いありません。

商学部にとって鈴木清之輔教授というかけがえのない人材を失ったことは研究・教育の両面において大きな痛手です。我々が鈴木教授の体調にもう少し注意を向けていればと、悔やまれてなりません。最後に鈴木清之輔教授のご逝去に改めて哀悼の意を表しますとともに、奥様をはじめとすご家族の皆様のご健勝を心よりお祈りいたしましてご挨拶とさせていただきます。

平成12年10月

商学部長 十 川 廣 國